

製品名: カルネキシン (リン酸化 Ser583) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04353**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	90kDa

抗原情報

遺伝子名	CANX
別名	CANX; Calnexin; IP90; Major histocompatibility complex class I antigen-binding protein p88; p90
遺伝子 ID	821.0
SwissProt ID	P27824
免疫原	抗血清は、Ser583 のリン酸化部位周辺のヒトカルネキシン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 543-592

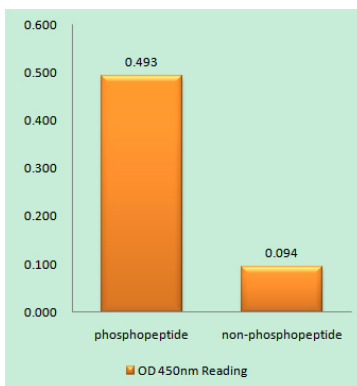
背景

この遺伝子は、分子シャペロンのカルネキシンファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、カルシウム結合性の小胞体 (ER) 関連タンパク質で、新しく合成された N 結合型糖タンパク質と一時的に相互作用し、タンパク質のフォールディングと組み立てを促進します。また、誤ってフォールディングされたタンパク質サブユニットを ER 内に保持して分解に供することで、タンパク質フォールディングの品質管理において中心的な役割を果たすと考えられます。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションも報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 小胞体で新しく合成された糖タンパク質と相互作用するカルシウム結合タンパク質。タンパク質の組み立てを補助したり、組み立てられていないタンパク質サブユニットを ER 内に保持したりする働きがあると考えられます。誤って折り畳まれたタンパク質を保持することで、ER の品質管理装置で重要な役割を果たしているようです。、オンライン情報:カルネキシンエントリ,類似性:カルレティキュリンファミリーに属します。、細胞内位置:ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画で質量分析によって特定されています。、

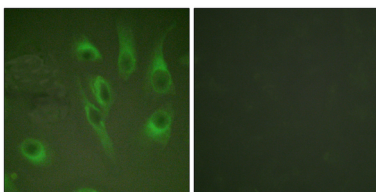
研究分野

抗原の処理と提示;

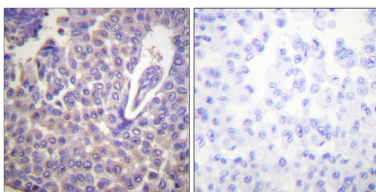
画像データ



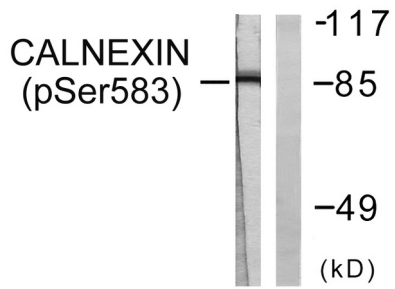
カルネキシン (リン酸化 Ser583) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



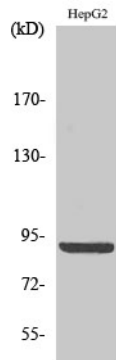
Calnexin (リン酸化 Ser583) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロックした状態。



カルネキシン (リン酸化 Ser583) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロックした状態。



EGF 200 ng/ml 30 μ L で処理した HeLa 細胞ライセートの、カルネキシン（リン酸化 Ser583）抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホカルネキシン（S583）ポリクローナル抗体（1：2000 希釈）を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析